



## 2024年の介護保険制度改正に思うこと

副代表理事  
**荒井 勝子**



今、様々な分野で人手不足が叫ばれていますが、介護現場では特に慢性的な人手不足が続いています。

人材の確保には先ず処遇改善が求められますが財源の確保が難しいこともあり、なかなか進まないのが現状です。介護保険の担い手である介護職は、人間の尊厳にかかわる大切な仕事

内容にも係わらず評価されていないように感じられ、平均給与も全産業に比べると低い状態が続いている事は非常に残念です。

介護従事者が給与の改善を実感できる報酬の引き上げや生きがいを持って働ける環境づくり等への取り組みが離職を防ぎ、サービスの質の向上、生産性の向上にもつながるものと思います。

現在、介護保険制度の2024年の見直しにむけて議論が進められています。(ニュースレター145号をご参照下さい) 介護保険制度は2000年4月に介護を社会全体で支える事を目的として施行され、「地域包括ケアシステム」の推進が掲げられた2012年以降は社会情勢の変化や介護・福祉を取り巻く環境の変化に対応するため3年毎の見直しが行われてきました。

また2024年は3年毎の介護報酬の見直しが行われ、2年毎の診療報酬の見直しとも重なり6年ぶりのダブル改正となります。(直近では2018年にダブル改正が行われました) 団塊の世代が75歳に達する「2025年問題」が懸念される中、介護と医療との更なる連携が必要になると考えられます。特に介護職の処遇改善の動向には期待をもって注視していきたいと思っています。

介護保険制度施行前から介護の仕事に関わっていた私は、「措置」から「契約」へと移行する中で何がどのように変わっていくのか戸惑いもありましたが、介護保険制度の基本理念である「利用者本位」「尊厳ある自立の支援」「自己決定(利用者による選択)」に期待を持って受け止めていた事を思い出しました。

実際、制度の施行後は、株式会社から個人企業、NPO等の参入によって多様なサービスが増え、ヘルパー、介護福祉士、そしてケアマネージャーという新たな専門職が誕生した事で、介護を必要とされる方が自立した生活を送り、家族の負担軽減にもつながっていった事で、新しい社会保険がスタートした事を実感しました。一方で困りごとに「お互いさま」とエプロン姿で駆けつけていた地域の人たちの出番が少なくなり地域のつながりが薄くなった感もありました。

しかし「地域包括ケアシステム」の出現で、公的なサービスだけではサポートできない部分を地域の方々お互いに支え合う取り組みが進められ、地域の繋がりが戻ってきました。

施行から23年、2024年の見直しで何がどう変わるのか、介護の現場にどのような影響があるのか等の情報を把握し、改正内容を正しく理解しておく事が大切であると感じています。

# 2023年度調査活動の現状

コロナウィルス感染症が2類から5類に移行となったことから、従来通りの訪問調査を基本として各事業所と調整し調査活動にあたります。

ただし、新型コロナ感染症対策については、前年度同様の対策や健康状況チェック等に細心の注意を払い調査に努めます。

また、今年度の調査員研修を受講した2名の新人が加わりましたのでよろしくお願いいたします。

## 1、介護サービス情報の公表制度調査

調査期間は令和5年10月30日(月)から令和6年2月29日(木)までの実調査日77日間で調査事業所数は前年度より41件増の594事業所の予定です。

## 2、みやぎ介護人材を育む取組宣言認証制度第2段階調査

認証事務局より10事業所の委託を受け、契約を行いました。(調査日程は未定)8月29日に開催された認証制度事務局のフォローアップ研修に一人市民委員会より12名が参加しました。

## 3、地域密着型サービス外部評価調査

コロナ禍同様の調査時間短縮は継続するが、ここ3年間中止していた職員面談及び事業所内ラウンドを追加した調査で実施します。

今年度は105事業所からの調査申し込みがあり、7月より調査を開始し既に9事業所の調査を実施しています。

## 4、福祉サービス第三者評価調査

前年度は受審推奨活動も空しく受注に至らなかったが、今年度も関連施設への電話、訪問活動を展開し、現時点で1事業所との契約手続きを進めており、他1事業所にも具体的スケジュール等の説明で訪問調整中です。

### < 調査活動におけるコロナウィルス感染症対策について >

今年5月に「2類相当」から「5類」に移行されたコロナウィルス感染症ですが、当一人市民委員会の調査においては、これまでと同様に下記の感染症対策を講じて調査を行います

1. 調査事前の体調点検と健康チェックシート作成
2. 健康チェックシートの事業所提出
3. マスク着用と手指消毒の徹底
4. 感染防止の観点から調査時間の短縮に努める

以上ですが、詳細については先に配布している「コロナ感染症対策調査員マニュアル」に基づくと同時に、各訪問先事業所の対策に従って調査の実施をお願いいたします。

<フォローアップ研修模様>

# 地域密着型サービス外部評価



去る8月18日（金）に仙台市榴岡市民センターで外部評価調査員22名が参加し、フォローアップ研修会を開催しました。

代表理事の挨拶に続いて、今回は宮城県グループホーム協議会会長の内海 裕氏による『外部評価の視点』と題した講演をしていただきました。

約1時間に亘る講演では、「労働環境や人材確保等のグループホームを巡る環境」「シフト表の見方」「ケアプラン」「災害対応」や「調査員が気を付けた方がいいと思われる対応」等々、詳細に亘ってお話をいただきました。その中にはグループホーム職員の入居者への並々ならぬ努力や支援の状況に加え、「調査時の課題をどう克服、解決できるかを一緒に考えてほしい」等との提言もありました。

また、昨年外部評価に伺った一万人市民委員会の調査員からの助言は、「これまでの外部評価と違った参考になる話を聞くことができた」との評価をいただきました。

後半は、3名の新人調査員紹介から始まり、評価委員会より「昨年度の振り返り」「事前提出資料の見方」の説明等があり、研修会を終了しました。



## <終了後のアンケートから（抜粋）>

（講演を聞いて）

- ・入居者の介護度軽減等につながる事業所、職員の努力等のお話良かった。

（事前提出資料について）

- ・どこを中心に見るかのポイントが良く解った。

（調査をしての振り返り）

- ・調査時間をオーバーすることが多かった。

## 【理事会模様】

8月30日（水）仙台市生涯学習支援センター 会議室（13／16出席）

- 議題
1. 各調査活動状況報告（詳細は前頁「調査活動の現状」参照）
  2. 運営経費節減について（案）（事務局提案事項）
  3. 次回理事開催予定について



# 健康第一の生活を



会員 若松 芳陽

昭和生まれの私、昭和～平成～令和と生きている。

振り返って見ると、小学3年生（昭和16年9歳）から旧中1年生（昭和20年13歳）まで、竹槍と空襲の時代で太平洋戦争の受難を体験させられた。

そして、戦後の衣食住など我慢の生活をも体験した。思い出したくもない受難の体験から、90歳まで生きられるなんて考えられなかった。この先、残り少なくなってきた感はあるが。

福島県いわき市出身、1932年生まれ、卒寿を迎え、N・OB会の総会の席上（令和5年6月20日）祝いの記念品を戴き、先輩同僚の皆さんから「健康の秘訣は、何だネ」と聞かれ、その時は「日常生活にクヨクヨしないことです」と答えていたが、実は、健康維持のため次の事に心掛けています。

- 1、朝、目が覚めた身体を、先ず柔らかくするためにストレッチ体操を。
- 2、次に、全身乾布摩擦で皮膚を鍛える。これを、毎朝続けている。

また、健康維持のための運動としては、

- 1、グランドゴルフ月2回（N・OB会）
- 2、ボウリング月1回（年金協会）

のそれぞれのサークル活動に、休まず参加するよう努めています。

日常生活でのバス利用のときは、片道はなるべく歩くよう心掛けている。（運転免許証は返上）。

食生活は、三度の食事をきちっと主として和食をとっている。

以上の様なことからか、どうかは分からないが市民健診（毎年受検）の結果では、基礎健診、各種がん健診とも異常所見はないとのこと。

最後に、有体のことを記しましたが、健康を維持するためには、健康第一の日々を送るよう心掛けるのが大切であると思います。

丈夫に育ててくれた父母（父69歳、母92歳で没）感謝する。

「さればとて 石に布団は 着せられず」

## ◆◇なんでも相談会のご案内◆◇

法律、成年後見関係の分野に限らず、会員やその家族、知人の方がお持ちの生活全般に関わる「困りごと」「悩みごと」等なんでも相談会です。

令和5年10月から令和6年1月までの開催日程は下記のとおりです。

### ☆開催日程

- ＊10月25日(水) 相談役 武田 貴志 弁護士
- ＊11月15日(水) 相談役 安田 廣治 司法書士
- ＊12月13日(水) 相談役 武田 貴志 弁護士
- ＊1月23日(火) 相談役 安田 廣治 司法書士

## 【編集後記】

コロナは5類に移行しましたが、終息した訳ではありません。私のパート先でもお盆明けに職員が2名陽性で欠勤しております。

先日調査予定のホームで陽性者が出て、調査が延期になったり、調査員の中でも発症した方がおります。

コロナに対し、今後はインフルエンザ同様に付き合っていかなざるを得ません。今回交流の広場では若松調査員から「健康第一の生活」を寄稿して頂きました。「自分の身は自分で守る」を再確認したところです。  
(工藤 俊廣)



特定非営利活動法人  
介護の社会化を進める  
一万人市民委員会宮城県民の会

編集委員 遠藤 千代 兼平 幸雄 工藤 俊廣  
曾根 務 出口 香